

細沙の地

沙漠とは如何。之れを普通に字義上より直解せば、唯漠々たる沙原なりと一言し去らん。然り沙磧の廣大なるものは、沙漠なること勿論なりと雖も、予の實見したる新疆の沙漠即ち戈壁は、決して斯る單純なるものに非ざるなり。

「浩浩乎平沙無限」と詞人が形容せし如く、細沙滿地、恰も海濱に似て、一木生せず、一草育せず、處々丘阜を成し沙崗を現じて連亘する有り。其他、眼に映するものは大道に沿ふて電柱の皚然併立する有るのみ。太陽は朝に沙を出で、夕に沙に入り四邊の風物頗る荒寥を極む。之れを過くるときは、車輪を没し、馬脚を埋め、尺前寸退して行進甚だ難澁す。若し夫れ嚴冬凜烈にして六花紛紛たらんか。一望忽ち千里の銀海に化し、一輪の氷月中天に懸り、四顧寂として萬籟聲なく、唯我が車の軋聲と、胡馬の北風に嘶くを聞くのみ。眞に宇宙の大觀を獨占し、羽化登仙の想あらしむ、此の大觀に恍惚たること霎時、俄然我身に返れば、峭寒骨に砭して、覺へず戰慄を禁せざらしめ、車中に蟄居して寒威を防ぐの用意に忙し。

礫石の地

或は礫石狼藉、宛も河磧の如く、磊々又累々たるの地あり。礫石の種類は硅石、碼瑙、石英、花崗岩、片麻岩、綠泥片岩等の碎片とす。此部に到れば馬蹄爲めに滑退し、車